

平成25年度 日南市立南郷小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己 評定	外部 評定	学校関係者評価コメント
学びの基礎基本づくり	1 児童が自分で考え、判断し表現する授業を目指し、伝え合う・読む・定着させる活動の充実と一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。	・校内研究を中心に学年部毎の授業や集中授業を通して授業力の向上を目指してきた。教師の授業に対する意識の高まりが、児童・保護者ともに90%以上という高い評価に現れていると考えられる。今後は学力調査等との比較・分析を行い、更なる改善を図りたい。	3	3	○ 「授業力の向上」については、保護者や児童の評価は90%と高い。教師自身の評価も概ね高い。今年度も職員全員が授業したということが、自らの授業力の向上を目指すとする姿勢は評価できる。 ○ 家庭学習については、保護者と児童に間に評価のずれがあるが、児童は「がんばっている」という意識をもっていることがわかって安心している。 ○ ぜひ「地産地学」を大切に、地元へ進学する児童の育成をしてほしい。
	2 チャレンジタイムにおける国語（漢字）・算数の習熟、朝の読書の充実を図り、「読み・書き・計算力」の向上を図る。	・チャレンジタイムを毎週火・水・木曜日の朝の時間に位置付け、火曜日に国語、水・木曜日に算数を実施している。国語に関しては主に漢字学習を、算数に関してはWeb学習単元評価システムを活用して学力の向上や指導法の工夫改善に生かした。学級担任だけでなく、全職員で分担して指導に当たった。			
	3 相手を意識した聞き方・話し方の定着を図る。	・授業を中心とした伝え合う活動を意識して指導を行ってきた。今後は自分の考えや答えに対する理由を述べる活動を増やしていきたい。			
	4 家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図る。	・毎日進んで宿題や宅週に取り組んでいると回答している児童と家庭学習の習慣化が図られているという回答をしている職員が90%を超えた。「各学年で身に付けさせたい項目」の一覧表を家庭に配付して、家庭学習の内容の充実を目指したが、個人差も大きい。			
豊かな心の基本づくり	5 児童理解のための教育相談の充実を図る。	・学期1回、教育相談時間を設定することによって、児童の思いや悩みに耳を傾け、児童理解に努めた。心配事や悩みを職員に相談することに肯定的な回答をした児童が74%であった。児童をよく観察し、声かけをするなど児童と密な取り組みを進めていきたい。	3	3	○ あいさつは、まず地域の大人からするようにしたい。若い保護者の意識も高める必要がある。しかし、知らない人が声をかけると不審者と思われるような風潮もあり、難しい時代になった。 ○ 「学校が楽しい」と回答した児童が90%ということで安心した。しかし、残り10%の児童のケアも学校として十分手を尽くしてほしい。早期の対応が重要なので、細やかな目配りをする、すぐに保護者へ連絡するなどの家庭との連携充実もお願いしたい。
	6 学校や地域社会で進んであいさつのできる子どもを育成する。	・挨拶については、児童と保護者、教師との意識に差が大きく、だれにでも進んであいさつができるまでには至っていない。今度も継続して日常指導を行うとともに、家庭の協力も得られるような取組が必要である。			
	7 「きまりよい廊下歩行」「無言清掃」を守る児童を育成する。	・きまりを守るについては、肯定的な回答をしている児童が目標の86%を達成している。また、清掃に対しては、ほとんどの児童が無言で熱心に取り組むことができている。縦割り清掃の効果が現れていると考えられる。			
	8 人権教育の充実を図り友達に対して思いやりのある言動のできる児童を育成する。	・年間指導計画に沿って道徳・学級活動の実施を行うことはできた。7月の参観日には、全学級が道徳の授業を行い、保護者へ道徳教育における家庭の役割について意識をもたせるようにした。また、道徳の研修を行い、道徳の時間の指導の充実にも努めた。友達に対する思いやりについては91%の児童が肯定的な回答をしている。今後も、生徒指導の三機能を生かした授業づくりや学校づくりに努めるとともに、道徳・学級活動での具体的な指導を通して人権感覚を育てていきたい。			
健康安全の基本づくり	9 体育の授業に「わくわく運動」や業間に「体力づくり」を取り入れることにより、児童がいろいろな運動に親しむ機会をつくり、バランスのよい体力の向上を図る。	・児童が進んで運動を行っているかという項目について、児童と保護者・教師の認識に差が見られる。今後も体育の授業の中でゲームのルールや場の工夫を行い、児童一人一人ができる喜びを味わえる授業を目指していく必要がある。	3	3	○ 以前より、徒歩で通学する児童が増えたように思う。これも朝の健康観察時の声かけや元気チェック等を含めた体力向上対策の取り組みのおかげであると思われる。学校に歩いて行くことで「負けない、強い心」が培われることも期待したい。 ○ 不登校ぎみの児童もいるようだ。家庭に起因することもあると思われるので、家庭での生活習慣の改善、保護者の食育・健康に関する意識向上の取り組みを継続・充実してほしい。
	10 栄養教諭との連携を図り、給食時間や各教科、学級活動等における食に関する指導の充実を図り、食に関心をもつ児童を育成する。	・食育については、「もぐもぐ賞」「ばくばく賞」等と設け、児童の興味・関心を引きながら適正量をバランスよく摂取することの大切さを指導してきた。今後も栄養職員による食の指導や、各学級での給食の時間や学級活動などにおける食に関する指導の充実を図るとともに、家庭と連携しながらさらに食育の推進を図る。			
	11 PTA活動や家庭と連携しながら「早寝・早起き・朝ごはん」の意識の向上を図る。また、自分の体は自分で守る児童の育成に努める。	・生活習慣アンケートの結果では一日の睡眠時間8時間以上が59%、朝ごはんが91%であった。早寝については達成率が低いため、今後も児童と保護者への啓発を図ってきたい。今年度は学校保健委員会を2回実施し、第2回は多数の保護者の参加が得られた。生活習慣の話であったが、有意義であった。			
	12 毎朝の健康観察や特定の運動（水泳・運動会・持久走）の事前健康調査を確実に実行し児童の健康状態を把握する。	・懇談会資料でむし歯治療についての資料を毎回出したり、治療が終わっていない児童の保護者へむし歯治療の予定をプリントで開いたりして治療の呼びかけを工夫してきた。その結果、1月上旬時点でむし歯治療率が63%となった。水泳、運動会、持久走大会前の健康調査は100%回収できた。配慮が必要な児童については全職員で共通理解できた。 ・遊具の安全点検をもとに具体的な安全策を講じることができた。			
教育課程全般	13 本校独自の特色ある教育課程を編成し、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。（バランスのとれた行事等）	・教育課程については校時程の工夫を取り入れており、行事の精選や実施の工夫を行ったことで、大変バランスの取れた教育課程を編成することができた。教師自身の評価は81%、保護者からの評価は90%であった。	4	4	○ 本年度も特色ある取組を実施することができたようだ。特に学校地域支援本部事業が更に充実していて、すばらしい。新聞やニュースで取り組みが紹介されると地元の方としてうれしく思う。 ○ 昨年度に比べ、参観日の出席率が向上してきたようだ。保護者の要望を聞き、日曜参観を増やしたり、行事と連携させたりしていることは評価できる。
	14 参観日等を魅力あるものに工夫し、広く学校の取組を発信する。	・参観日については、行事と組み合わせることで、12月までの参観率の平均は85%であった。懇談会については設定した数値目標に達成しなかったが、平均61%であり、今後より一層懇談率を高めていくような工夫が必要である。			
	15 総合的な学習の時間（ふるさと学習）の充実を図り、郷土を愛する心を育てる。	・地域コーディネーターが専属していることで、大変積極的に地域の人材を活用することができた。保護者からの評価も非常に高いので、今後も様々な学習の中で精選を図りながら活用を図っていく。			
	16 保護者及び地域の各種団体や施設等との交流を行い、体験活動を積極的に行う。	・学校支援地域本部事業の地域コーディネーターの尽力もあり、地域の各種団体等との連携は充実している。 ・保護者や祖父母の方々への協力依頼を行った学年もあり、たくさん協力していただいた。			

【総評】

- 1 本年度の取組について
 - 今年度は、いじめや体罰、子どもの自殺等が話題となった。校内だけでなく、多くの関係機関と連携して保護者、児童のケアをしていただいているということで継続をお願いしたい。学校も学力向上ばかりでなく、児童のコミュニケーション能力育成、体力向上、キャリア教育の取組、道徳教育の充実、家庭の教育力の向上等、時代の要請に応じたさまざまな課題があり、たいへんだろうが、職員の方々には教育者としての情熱やモチベーションを保ちながら、ぜひ頑張ってください。今後の日本を背負う人間の育成は先生方の責務であるという強い自覚をもっていただくことを期待する。
- 2 次年度への改善に向けて
 - 現在の真摯な取組を継続してほしい。しかし、順次、改善は必要であろう。